長期欠席・不登校に係る　　　　　　　　　　　　　　　年　　月　　日（　　）

**「ステップアップ・支援シートVer.2」**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 平常 | **状態０** | **家　　　　　　　　　庭** | 目標とする居場所へ向けた矢印（登校できる日）学校集団生活を意識して | **教　　　室**記入例６（高校） |
| 遅刻欠席 | **状態１** |  | **自立応援室・保健室****（場所を分ける）** |  |
| 自立応援室・保健室又は欠席半分 | **状態２** | （不安定な日）学校以外の居場所 |  |  | 学校復帰を具体的に模索 |  | **放課後登校****（時間・場所を分ける）** |  |  |
| **教育支援センター** |
| **フリースクール****公民館** |
| 学校以外の施設へ | **状態３** |  |  |  |
| **他** |  |  |
|  |
| 外出○ | **状態４** |  | **外出**一歩外へ | 「現状」・通常通り登校をすれば教室に入ることもある。・担任との関係はよい。友人関係もよく休み時間はよく話をしている。・気持ちが落ちているときは、欠席（月３日程度）することがある。・学習意欲が低く、低学力である。（英語、数学）・一人親家庭（母親、兄（高３）、本人） |
| 外出× | **状態５** |  |
| 引きこもり | **状態６** |  |
| （本人の思い）・今の学校は卒業したいが、卒業後の進路までは考えられない。・勉強しろと保護者や兄に言われるとイライラする。 |
| （保護者の思い）・子どもを登校させたいと思っているが、子どもへの関わりに対する不安がある。・子どもには地元の4年制大学に進学してほしいと思っている。 |

○対応や支援のターゲットと具体的な支援

＊A・B両方の視点で、誰が、何をきっかけに、いつ、どこで何をするのかを具体的に考える。

|  |
| --- |
| A　長期欠席・不登校の要因や背景への対応　→　専門家や関係機関とも連携して　　　　・本人要因　　・家庭要因　　・学校要因B　休みの継続や登校のしにくさ（本人）への対応　　　　　　　　　　　　　　→　本人の「次のステップに進みたい」を引き出して |

＊どのような状態であっても、学校は定期的な家庭訪問を行い、児童生徒とのつながりを切らない。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 対応 | 誰に | 誰が | 「支援策」何をきっかけに、いつ、どこで、何をするのか |
| A | 保護者 | 担任・養護教諭SC教育相談担当者・管理職・担任 | ・保護者の思いを聞き、SCにつなぐ。また、保健室や教育相談室などの居場所があることを説明し、保護者に対しても朝の押し出しの協力を依頼する。・保護者の子育てに関する悩みや、今の困り感を聞き、学校と共有する。（SC面談日を伝える。家庭訪問等でつながりを深める。）・SCと連携し、ケース会議等で母親への支援策を検討する。保護者の困り感の内容によっては、SSWにも参加を依頼する。 |
| B | 本人 | 担任保護者 | ＊**今いる居場所**での支援「**Push**」と、**目標とする居場所**からの支援「**Pull**」の両方の視点で支援内容を決定して記入すること。＊説明資料参照・保護者から連絡があったときは、本人と話をさせてもらう。（Pull）・保健室や教育相談室で話を聞く。（Push）・教科担当と連携して、欠席時の課題や学習支援を行う。（Push）・気持ちが安定し、教室へ入れるようであれば、担任と連携しながら、教室へ行くことを促す。（Push） ・保健室や教育相談室で休めることを説明し、教室に入れない時は利用ができることを説明する。（Pull）・朝の家からのソフトな押し出し。（Push）・学校へ行こうとしない場合は、学校へ電話をかける。（Push）・朝食を食べさせる。（Push） |

長期欠席不登校対策に係る「ステップアップ支援シートVer.2」について（説明）

**１　シートの目的**

　　対象児童生徒の現在の状態と居場所から、段階を一つでも上げるための支援

策を検討するツール。

**２　シートの活用について**

・　視覚化された居場所が示されたシートを学年会やケース会等で共有する。

・　「誰に対して」「誰が」「何をきっかけに」「いつ」「どこで」「何をするの

か」を具体的に検討する。

・　長期的な支援策ではなく、***「一ヶ月間、一学期間等短期的な支援策の検討」***

をする。

・　過去の欠席日数や家庭の状況等の情報が必要な場合は、アセスメントシー

トを併用する。

・　検討したシートは経過も含め、変容を後から確認出来るよう、データ又は紙媒体で保存する。

・　次のステップの支援策を検討する場合や支援がうまくいかず、他の支援方法を検討する場合は別のシートを使用する。

**３　活用方法の手順**

**「目標とする居場所の設定」**

・　シートの左側の表に現在の状態と居場所を蛍光ペン等でチェックする。

　・　現在の居場所から目標とする居場所へ矢印を引っ張る。矢印は複数あっ

てもよい。

　・　シート左側の「現状」には、本人の現在の状況や欠席の要因・背景を記入する。また、本人の趣味や特技、友人関係、関係機関等とのつながり、会議の中で出たキーワードとなることなども自由にメモする。

**「本人および保護者の思いの確認」**

・　現在の状況に対する本人及び保護者の思いを記入する。

**「Ａ・Ｂ二つの視点から、目標とする居場所へ向けた具体的な支援策の検討」**

◆A・B二つの視点

　◆A・B二つの視点

A対応：長期欠席・不登校の要因や背景への対応

B対応：登校のしにくさ（本人）への対応

**＊支援策は支援対象者の状況によってA、Bのどちらかだけになっても構わ**

**ない。**

・ 右にある「支援の為のリソース（参考）」に記載している、学校内外で考

えられるリソースの中から、支援対象者にとって有効と思われるものを使

って支援策を検討し、シートの右側に記入する。

・　B対応の支援策を検討する際には、Push・Pull両方の視点からのアクショ

ンを相互に連動させる。

Pull（目標とする居場所へ引っ張る）

Push（現在の居場所から目標とする居場所へ送り出す）

・　曖昧な支援策ではなく、具体的に「誰に対して」「誰が」「何をきっかけに」

「いつ」「どこで」「何をするのか」を検討する。

**４　その他**

・　担任だけが関わるのではなく、関係ある教職員や関係機関等が有効に関わ

る。

・　支援シートに記載している居場所や下記の支援の為のリソースは、あくま

でも参考である。地域によって実態が違う為、学校ごとに変更を加えても

よい。

「支援の為のリソース（参考）」

|  |  |
| --- | --- |
| 行事等 | ・運動会（体育会） ・学芸会（文化祭） ・修学旅行 ・定期テスト・クラス替え　・部活動の大会（コンクール） |
| 活動内容 | ・学習 ・運動 ・遊技 ・ICT ・その他 |
| 頻度 | ・毎日 ・週○○日 ・月○○日 |
| 時間 | ・朝 ・昼 ・放課後 ・○○時間 ・午前 ・午後 |
| 場所 | 学校 | ・教室 ・保健室 ・自立応援室 ・図書館 ・支援学級 ・グラウンド |
| 学校外 | ・教育支援センター ・フリースクール ・公民館 ・公園・放課後等デイサービス　・不登校親の会 |
| 本人の興味 | ・部活　・趣味　・特技　・習い事 |
| 人 | 家庭 | ・父母　・きょうだい　・祖父母　・叔父母　・いとこ |
| 学校 | ・担任　・養護教諭　・管理職　・自立応援室担当教員　・生徒指導担当　・特別支援Co　・教科担任　・部活顧問・登校支援員　・支援員（　　　　　　　）　・友人 |
| 専門家 | ・SC　・SSW　・民生委員　・主任児童委員　・愛育委員 |
| 学校外 | ・教育支援センター　・フリースクール　・公民館・放課後等デイサービス　・不登校親の会 |
| 関係機関 | ・教育委員会　・市町村福祉部局　・児童相談所　・保健所 |

**＊「支援の為のリソース」は各校で地域にあるリソースに打ちかえて活用してください。**